



**第9号**  
 昭和50年11月30日  
 発行人 野村節也  
 編集人 永井又太郎  
 印刷所 広島県双三郡吉舎町  
 佐々木印刷株式会社



### 双三郡君田村

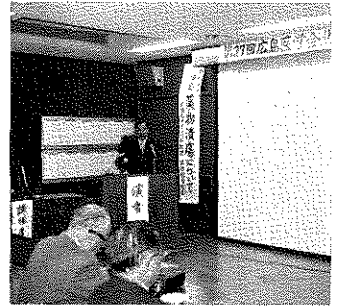
### 第二十七回広島医学会 北部支部大会開催さる

当日の大意は、広島県医師会速報第八四〇号十三頁に、県医師会常任理事、門前徹夫先生により紹介済みの為、演題だけを列記する。但し、特別講演は、別記の如く掲載した。

期日 昭和五十年十月二十六日  
 (日)  
 場所 三次市粟屋町柳迫乙二八  
 一八

- 双三地区医師会館
- 甲奴郡医師会長 井口利男
- 高田郡医師会長 足利玄郎
- 比婆地区医師会長 右近文三
- 双三地区医師会長 野村節也

開会  
 開会の辞 双三地区医師会長 野村節也  
**研究発表** (AM 9:30~10:30)  
 (1)発表 七分 質疑 三分  
 (2)第一鈴六分 第二鈴 七分  
 追加発表(一分間)の申込みは座長へ申し出て下さい。  
 (1)当病院における人工透析の現況  
 双三中央病院内科



○加美川弘之・若本敦雄・目崎育弘・毛利昭生・松本隆允・佐々木博・音田正樹。

(2) レンメルの Papilian Syndrome  
 庄原赤十字病院外科

○黒瀬康平・田村精平

(3) 過去八年間における当院の産科的統計  
 厚生連吉田病院産婦人科

○日浅毅・山下通隆

(4) 比婆郡における循環器疾患の統計的観察  
 西城病院内科 片山義民

(5) 重症心身障害児の実態  
 重症心身障害児施設子鹿学園精神科 難波克雄

(6) 低脂質血症を伴ったL&A骨髄腫の一例  
 厚生連吉田病院内科

○藤山正道・横矢仁・平賀志佳

休憩  
 (AM 10:30~11:00)

(7) 腎臓の囊胞性病変(レントゲンを中心に)  
 庄原赤十字病院内科

福井 武

(8) 家族治療の経過から  
 西城病院精神科

村田稜也  
 (9) 両脚ブロックを伴った完全房室ブロックの一症例。  
 厚生連吉田病院内科  
 ○平賀志佳・藤山正道  
 横矢仁

(10) Diabetic Charcot Jointの一例  
 双三中央病院整形外科

○吉岡薫・中村安成

県医師会副会長挨拶  
 林 融 (AM 11:12~11:20)

昼食  
 (AM 11:40~PM 12:40)

特別講演(別掲)

(1) 癌の免疫療法について  
 (PM 12:40~1:40)  
 岡山大学第一外科講師  
 折田薫三先生

(2) 薬物濃瘍について  
 (PM 1:40~2:40)  
 広島大学第一内科教授  
 三好秋馬先生

閉会  
 閉会の辞 双三地区医師会副会長 環翠楼  
 長 鳴戸謙隆  
 (PM 3:30~5:00)



# 特別講演

## 薬物性潰瘍について

広島大学第一内科 三好秋馬教授

胃潰瘍の発生機序については攻撃因子と防御因子のアンバランスによるもの(Sun, Shayらの)にエーマでよく理解される。前者の攻撃因子とは酸、ペプシンの過剰分泌、相対的分泌亢進であり、それによって分泌機序の異常が容易に指摘される。たとえば迷走神経の緊張亢進、ガストリンの異常産生(Zoinger - Ellison 症候群)、ガストリンの遊離増加(ガストリン産生細胞の増加 hyperplasia of G-cells)に加えて抑制ホルモン(たとえば、セクチレン)の feed back 抑制の障害らであるが、しかし正確には指摘されているとはいい難い。

しかしながら防御因子、すなわち、粘膜側からの説明はあまりなされていない。防御因子の減弱とは本態が何であるか、粘膜抵抗の減弱とは何であるか、粘液産生の減弱の機序は何であるか。未解決の点が多く残されている。一九三三年、Theorell は猫の胃粘膜を用いた実験で、胃液内の H<sup>+</sup>イオンが減少し、Naイオンが増加することから、胃内にあって H<sup>+</sup>イオンの back diffusion のあることを実証し、この back diffusion の如何が粘膜抵抗の強弱を表現しているとした。Davenport は mucus

barrier の存在を想定し、これを破壊するもの(mucus barrier breaker)が H<sup>+</sup>の back diffusion を増加し、粘膜の障害(びらん、出血、潰瘍)を発現するとし、breaker として胆汁酸塩、アスピリン、エチルアルコール、インドメサシン、その他の多くの薬剤をあげている。このような薬剤で発生する潰瘍を薬物性潰瘍(drug induced ulcer)と総括したい。

われわれは近時六例のアスピリン服用後、胃体上部に潰瘍を認めた症例を経験した。五十六歳より六十八歳にわたる高齢者で女性が五例である。いずれも風邪のためまた持病の神経痛のため、医師より薬剤の投与をうけたもの、及び売薬をもとめて服用したものである。潰瘍は比較的大きく、二例は吐血で来院した。胃液検査による一例は高酸で二例は正酸、三例は低酸であったが無酸症はなかった。

採取された胃液が四例基礎分泌胃液も黄色を呈し、二例は刺激後の後半に採取された胃液が黄色で胆汁の混入があった。

これら臨床事実から、胆汁の介在とアスピリンの服用という二つの mucus barrier breaker の相互作用が潰瘍の発現に関連したものと推定した。(H<sup>+</sup>イオンの back diffusion を観察していないが)すなわち、アスピリンで代表される薬物潰瘍は粘膜の因子で惹起される潰瘍といえよう。

周知のように欧米では関節リウマチが多く、アスピリンの大量投与が行なわれているのでアスピリン潰瘍に対しても関心が強く、とくに近時はそれらの発生機序について考察した報告が極めて多い。

また、Theorell, Davenport 等の H<sup>+</sup>イオンの back diffusion を指標とした胆汁酸、アスピリン、アルコールの意義を検討した報告が行なわれている。それらの一、二の報告を中心に紹介してみる。

消化性潰瘍患者の胃液に胆汁酸が多く証明されることは早くから報告されている。Iveyらの成績によると、健康者に比べ胃潰瘍患者、関節炎患者の胃内における H<sup>+</sup>イオンの back diffusion は亢進しており、健康者の胃内に胆汁酸塩を注入すると back diffusion は亢進を示す。また Iveyらのラットを用いた一連の実験成績によっても胆汁酸塩、アスピリンの胃内注入は H<sup>+</sup>イオンの back diffusion を増加せしめる事が実証されている。同時に胃粘膜の血流の減少が Aminopyrine clearance で明らかにされている。

胆汁酸と潰瘍発生に関して、胆汁中の Lyso Lecithin が粘膜障害の主因とされているが、潰瘍患者の胃液中に Lyso Lecithin が高い事実だけで詳細な実証はない。

一方、幽門結紮ラットを用いたインドメサシン投与実験で胆汁の存在で一〇〇%の潰瘍発生がみられるという。さらに拘束潰瘍作成実験で、胆管結紮を行なうと潰瘍の発生はないが、その際、胆汁を胃内注入した群ではやはり一〇〇%に潰瘍が発生する。

更に近時の報告によれば、アルコール、アスピリン、塩酸を胃内に注入すると胃液内のペプシンが増加すること、その際、H<sup>+</sup>イオンの back diffusion の程度とペプシンの増加に正の相関があることが指摘されている。

われわれも幽門結紮ラットを用いて塩酸、アルコール、アスピリン、胆汁の注入実験群いずれにも胃液中ペプシン、胃粘膜内ペプシノーゲンの増加がみられ、胃液中 H<sup>+</sup>イオンの減少、Naイオンの増加がみられた。その際、腺胃に潰瘍が発生した(幽門結紮ラットでは前胃のみ潰瘍、びらんが発生し、腺胃には発生しない)。

同時に血中ガストリン値を測定してみるとアスピリン投与群、胆汁投与群、アスピリン+胆汁投与群にて対照に比べ血中ガストリン値の上昇が観察された。

以上諸事実、諸成績より、薬物潰瘍の発生は、次の如く考えられる。

何らかのある mucus barrier breaker (胆汁酸、アスピリン、アルコール等)が粘膜に作用して H<sup>+</sup>イオンの back diffusion を促し、ペプシンの増加と相俟って粘膜を障害する。さらにガストリンを遊離せしめ、酸分泌を亢進せしめ、それが更に back diffusion を増加せしめる。この様な機序の

消化器系腫瘍・癌・癌前病

Daipin

上腹部痛に制酸剤の効果持続に...

**ダイピン錠**

一般名 Nメチルスコホロミンメチル硫酸塩 規格品 106

第一製薬株式会社 東京都中央区日本橋三丁目14番10号

CERM 社 (イオン・フランス) 特許品

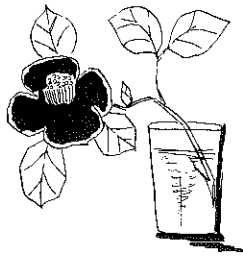
鎮痛・抗炎症剤

**バンフラミン®** カプセル

一般名 塩酸チノリジン (単位当り ¥28.00)

製造 = 吉富製薬株式会社

販売 = 武田薬品工業株式会社



悪循環によって、潰瘍が発生するのであると推定される。われわれが始めにのべたアスピリン潰瘍患者の胃粘膜の生検組織について、ヒスタミンとペプシノーゲン量を測定してみると、ともに健常者に比べて高値を示し、上述アスピリン、胆汁投与ラットでも粘膜ヒスタミン、ペプシノーゲンは対照群よりも高値を示す。即ち軌を一にした成績といえよう。以上のことから、アスピリン潰瘍は粘膜面の障害作用から始まり、その間、塩酸の存在、胆汁の存在が相加されて潰瘍が発生するのであろう。

しかし、これら薬物潰瘍は試験にみられる急性潰瘍の性格もっており、比較的早期に治癒するが時に、吐血、下血を伴い、穿孔の危険性はある。

薬物潰瘍の治療はしたがって粘膜面に保護的に作用するものがよく、近時、抗ペプシン剤、ゲファルネット、グルタチオン、あるいはカルベノキソロンなどが、実験的にもH+イオンのback diffusionを阻止することが指摘され、潰瘍の発生を阻止する成績が報告されている。薬物潰瘍は、治療もさることながら発生防止が重要である。

# 癌の免疫療法

岡山大学医学部第一外科教室

講師 折田 薫 三二

私、三次より岡山に出て二十七年目、癌とリンパ球の研究を始め、十五年目となります。郷里の医師会への御招待、心より御礼申し上げます。

ここ数年の間、年と共に癌の免疫療法が、身近かなものとなり世界的レベルで扱われていますが、これらの背景を私共のやってきた研究をとおしてお話し、本日の大役の責め的一端といたく存じています。要旨を箇条書きすると次のようになります。

一、動物癌、人癌いずれでも、腫瘍が発生してある大ききになると領域リンパ節リンパ球に先ず抗腫瘍性(癌抗原に対するT細胞)が生じ、次第に増強し、ある限度を越えて増大すると抗腫瘍性が低下、消失してまいります。

二、他方、特異的細胞性免疫の母

体であるT細胞系自体のもっているツベルクリン皮内反応、U2C反応、ロロ幼若化反応のような生物学的活性も、癌の増悪と共に低下してまいります。手術前や治療前にこれら非特異的細胞性免疫能を測定すれば、癌の進行度を予知することができます。

三、進行癌におけるこれら細胞性免疫の非特異的低下は、決して不可逆性ではなく、腫瘍を根治的に除去してやりますと、徐々に回復してまいります。リンパ球の生物学的活性の低下は、担癌生体内に存在する腫瘍の量をしめすものと考えられ、手術後あるいは化学療法による寛解期に定期的 follow-up しますと再発の予知に有用です。

四、根治的手術に伴う特異的細胞性免疫の変動は複雑です。末梢血リンパ球のマクロファージ遊走阻止活性(MI活性)を指標としてみますと、腫瘍組織を遺すことなく完全に切除したと思われる症例では、MI活性が手術後早期に減弱陰転してまいります。進行癌症例では、根

治手術することによりMI活性が手術後陽転してまいります。これらに動物実験を加えて、特異的細胞性免疫の保持には、ある幅の腫瘍抗原量が必要であると考えています。自家剔出腫瘍組織を用いての手術後免疫療法は、必須である理由となつています。

五、Mathe, Morton には、BCCの全身投与、腫瘍内注射が白血球、メラノームなど種々の悪性疾患に有効なことは、よく知られています。動物実験の結果により、BCCを自家剔出腫瘍細胞(マイトマイシン処理)に混ぜて手術後に二、三週間隔で皮内注射してやる方法を行なっています。MI活性でみる限り、かかる免疫療法で特異的細胞性免疫は、術後長期間維持されています。根治手術の不完全なものでは、化学療法との合併が必要となります。また、手術不能は表在性の悪性腫瘍には、BCCの腫瘍内直接注射の有効な場合があります。

六、癌の免疫療法は、何らかの手段で腫瘍残存量を最少にした後で行なうのが最も有効です。いづれにしても、癌の免疫、癌の

免疫療法の中心は、担癌生体のリンパ球、就中T細胞にありわけですが、in vitro で担癌マウスのリンパ球が自己の腫瘍細胞を直接攻撃する様子をシネマでおめにかけます。免疫T細胞が、腫瘍細胞表面に群集、接着して、増殖を抑え破壊するわけです。

以上、担癌動物、癌患者のリンパ球を通し、癌の免疫の起り方、その推移、治療による変動、さらに免疫療法の実際につき大要を、お話ししました。



ブロック便り 箕岡源二記

昭和五十年 度 双三医師ゴルフ同好会遠征記

双三医師ゴルフ同好会は恒例により、年一回遠征ゴルフは宮崎フエニックスカントリークラブ、フエニックス高原カントリークラブに決定。会員野村、鳴戸、高場、今井、板橋、牧原、三浦、岡崎、湯浅、酒井諸先生と箕岡その他三名を入れ総勢十四名。九月十三日広島発二十三時三十分翌星一号に乗車して、一路宮崎に向けて出発した。翌朝宮崎駅午前八時二十分六分定刻に到着。駅前よりタクシー三台を連ねて国道十号線より、国道二六八号に入り三十分後フエニックス高原カントリークラブに到着。このカントリークラブは海抜二百米の緑の高原に広がり、全長一万四千四百五十五ヤード、三十六ホールコースで、その眺望は見事で、北に九州連山、西に高千穂連峯、東は宮崎市街から日向灘をのぞみ、南は霧島の山々と、日南海岸が美しい線を描いている。まさにゴルフ場にとっては此の上もない景観であった。

約六時間の熱戦後宿泊地であるフエニックスツインサウドホテルに午後六時三十分頃到着。午後七時半より夜の宴会に入り、酒、ビール、ジュースそして料理が体内に入るに従い、其の日のスコアに満足した先生、悲観した先生、反省著しい先生等の会話が、南国宮崎の間に響き亘り、和気あいあいの内にて午後九時三十分頃終了。しかし未だ熱気冷めやまぬ、六人の先生達は地下のバーに進出し、宮崎の美人等と深夜まで酒を酌み交し明日のゴルフの糧にしたそうである。 さて第二日目はジーサウドホテルより徒歩にて五分間位の所に位置し、耳を澄ませば潮騒が聞こえ、松の樹海の中に全長一万六千ヤード、二十七ホールのフエニックスカントリークラブでプレー。昨夜の遊興が過ぎたのか、充血した目の不眠の顔、さまざまで午前八時六分、高千穂コースより開始。九月十五日も晴天でコースは、日向灘より眩しきばかりの朝日は我々のプレーを詠歌し、グリーンフェアウエイは露に濡れて、水珠の輝きがボールを招き、クラブで裏打されたボールはグリーンに向かって飛翔と思いきや、松林の中に鎮座。

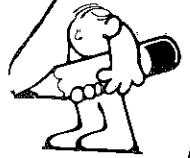
先の苦勞が思いやられるとは小生の事で。各人がベストスコアを目指してプレーイングしました。午後二時二十分プレー終了。然し若さに漲る鳴戸、岡崎先生等は後ハーフを住吉コースにてプレーイング。後日話でキヤデーより此のペアーはシングルの腕ありと激賞された由です。 午後四時より当クラブハウスにてミーティングを施行。土地の銘酒焼酎を味わいながら二日間に亘る成績を発表(別表に記載)し、 午後五時十五分頃タクシーにて宮崎空港に向け出発。福岡空港、博多を経て三次に午前一時四十分全員無事帰省し、解散。 最後に此の旅の企画、協力を頂いたケンコー産業KK吉森氏、多田医療器械KK多田氏、及び日立V線KKに誌上を借りて厚く御礼申し上げます。

	刈干コース		コ高 一 千 穂	日南 コース	ToTal	H・D	Ne T	R
	out	in						
三浦	46	54	53	54	207	72	135	優 勝
板橋	49	53	45	48	195	48	147	2 位
鳴戸	40	42	41	44	167	18	149	3
湯浅	49	46	50	46	191	39	153	4
牧原	51	48	55	43	197	32	165	5
箕岡	46	52	63	53	214	38	176	6
酒井	55	44	52	59	210	32	178	7
岡崎	45	53	52	48	198	16	182	8
今井		50	50	51				敢 闘 賞
高場	69		76	61				敢 闘 賞

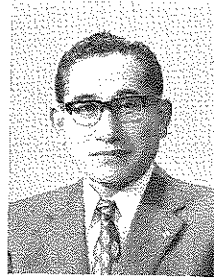
新 広域合成ペニシリン  
**パセトシン**® カプセル 細粒  
「日抗基」アモキシシリン製剤  
薬価 ■125mgカプセル137.40 ■250mgカプセル268.00  
■細粒1g 197.60  
協和醸酵 特許許諾 英国ビーチャム社

抗動脈硬化剤  
抗キニン性・抗遅延型炎症反応因子性  
血管透過性亢進阻止剤  
**ANGININ**  
BANYU PHARMACEUTICAL CO.,LTD

# 会員紹介



## 野村節也先生



住所 大正七年六月三日生  
三次市十日市町

昭和十八年 日本医科大学卒  
九州大学沢田内科副手  
その間中支方面へ応召  
昭和二十一年復員後再度沢田  
内科へ入局す  
昭和二十四年三月父のもとに  
て開業

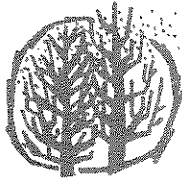
家族 妻 伊津子

長女 節子 婚約中  
長男 俊也 北里大

三月、会長に就任して早や  
十か月になりましたが、雑事  
に追われて何一つ仕事らしい

仕事もせず経過し責任を感じ  
ています。

近々地区地域保健対策協議  
会も発足する予定で、その中  
には緊急医療等も含まれ、地  
域医療発展のために全力を盡  
す考えです。そのためには、  
健康に十分注意して、出来る  
だけ休日には下手なゴルフを  
楽しむため、コースに出るよ  
うにしています。一時熱心に  
やっていた楽焼も暇をみつけ  
て又始めてみようかと考えて  
います。



## 斉藤 憲先生



住所 双三郡作木村下作木

大正八年三月五日生  
四高、大阪帝大医学部卒。京都  
府立医大、須磨赤十字病院等を  
経て、昭和四十七年作木村にて  
開業。

家族 妻 敏子

長男 律  
長女 令子

白砂青松の海も広大な田園も  
好きですが、過疎の山村に住み  
着いたのもつかの間、水害と火  
災のダブルパンチ。往診靴と車  
を除いて凡て灰。形あるものは  
何時の日か滅すると云う事を成  
程と思いました。幸に諸方面の  
皆々様方の温かい御激励と御支  
援に依り、お蔭様で再起する事  
が出来ました。紙面をお借りし  
て厚く御礼申し上げます。三次  
高校作木分校の旧敷地の大部分  
を買収、診療棟と住宅を建て一  
年になります。

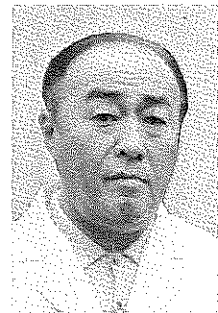
東京浅草生れの浅草育ち、自  
然へのあこがれは強く中学を出

て東京脱出の夢を実現させたも  
のです。小学生の頃ベランダに  
木箱をならべ、トマトや茄子を  
作ったり、緑日の夜店で五銭、  
十銭の鉢植の木や草花を買い集  
めました。そんなわけで、今で  
は漬物用の野菜、家庭の蔬菜は  
自分の手で作って居ります。昭  
和五十年の庄巻は西瓜三十五個  
収穫したことです。

一日二十四時間勤務の様な山  
村の開業医生活は想像以上のも  
のです。賢明な妻と優秀な二名  
の従業員に支えられて、頑張っ  
て居ります。田舎の生活は誰し  
も大変なことですが、やがて見  
直される日も来るでしょう。

深夜往診の車に兎や猪が当り  
車に載せて帰宅した事もありま  
す。きじ等の野鳥は勿論狸、狐  
猿にも出会う素晴しさ。吾むす  
谷間の岩、清流、四季に変わる草  
木、美しい山脈、きらめく星や  
流れる雲の移ろいに生の歎びと  
悲しみを感じます。春秋の山道  
を歩く往診も又良き哉。雪の山  
道は肉体的には行を積む様だが  
神々しいばかりの雪山に身も心  
も溶け込んで往診する気分は都  
会では得難いものがあります。  
遠からず雪の季節がやって来る。  
雪と云えばスキー。スキーは四  
高金沢時代に人並に滑ったが、  
今は道具もないし、時間もない。  
来年もあれこれ栽培し、夏に  
なったら美しい水の澄んだ村営  
プールで泳ぐ事を楽しみにして  
いる。

## 高場賢治先生

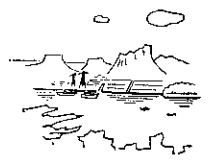


大正九年一月一日生  
双三郡三良坂町

五人兄妹の二男として生れた。昭  
和十八年九月大阪高等医学専門学校  
（現大阪医大）を卒業。大阪市内の  
外科病院勤務。昭和十九年八月応  
召。比島に追いやられた。きびし  
い敗戦の連続の中で、食うや食わ  
ずの毎日で、とも角、どうやら一  
命をつなぎ止めて終戦。それから  
一年四か月、PW生活を送った。  
空腹と云う事が如何に苦しいもの  
か、そして、空腹と云う事が、如  
何に人間をみにくい姿にするかと  
云う事を思い知らされたのである。  
昭和二十三年十二月現地に父と一  
緒に開業。

一人娘の長女に一昨年婿養子を受  
迎え、今年大阪医科大学に入學。  
八月には初孫の女児が誕生。  
孫とはこんなに可愛いものかと  
しみじみと感じた事です。  
現在は妻と二人暮らし。  
元気で診療に従事している次第で  
す。

# 医師会 だより



(昭和五十年八月)

昭和五十年十一月

8月5日(火) 野村会長、鳴戸副会長、石田嘉邦先生宅仏前参り

8月29日(金)

第二十七回広島医学会北部支部大会開催について協議  
午後四時  
出席者 野村会長、高場副会長、長船理事

9月18日(木) 学術講演会  
場所 双三地区医師会館  
講演と映画

(A)学術映画 六：三〇～六五〇  
(B)講演 「線溶酵素剤の臨床使用経験」

9月19日(金)

緊急医療協議会 午後七時  
出席者・野村、鳴戸、野島、西村、政、荒瀬、敏、大谷、黒瀬、真、箕岡、舟木、佐藤、有信、佐々木各先生

9月30日(火)

昭和五十年第二回理事会  
午後四時  
出席者・野村会長、鳴戸副会長

## 告知板

先般、当地区医師会長野村節也先生から、お知らせがあった如く次の点、御協力下さい。  
一、双三地区医師会相互の年

賀状、暑中見舞は廃止する。  
二、当地区内会員相互の御歳暮、御中元は廃止を原則とするが、特別の事情もあること故、各会員の自主性にまかせ。

高場副会長、中村、永井、長船板橋、三浦、箕岡各先生  
荒瀬議長  
協議事項  
①第二十七回広島医学会北部支部大会開催について  
係 研究発表順序、発表時間、会場設定、案内状等

②管理規則一部改正の件と適用範囲  
③臨床検査センター奨学金支出の件  
④臨床検査センター職員事故処理の件  
⑤職員借家の場合の住宅手当支給の件  
⑥職員旅行補助支出の件

10月8日(水)・9日(木)  
国保請求明細書の出張受付

10月17日(金) 双三中央病院戴帽式  
会長代理出席 午後一時三十分

10月26日(日)  
第二十七回広島医学会北部支部大会(別記掲載)  
午前九時三十分  
特別講演  
①癌の免疫療法について  
岡山大学第一外科 講師 折田薫三先生

②薬物漬場について  
広島大学第一内科 教授 三好秋馬先生  
③懇親会 環翠楼

11月14日(金)  
第十一回(九号)巴杏編集委員  
会概況報告 午後六時三十分

七時三十分  
場所 石田無線二階  
出席者 高場副会長、永井、岡崎、箕岡各委員  
協議事項  
①全景写真、君田村、田中先生に依頼  
②学術関係  
第二十七回北部医学会について  
永井依頼  
特別講演記録(三好教授)・箕岡先生依頼  
(謝礼一万円也 事務局より箕岡先生に届ける)

③会員紹介  
野村、齊藤、岡部各先生  
④ブロックだより  
○栗本先生に依頼：岡崎先生担当  
(日本シリーズ編載について原稿二、三枚程度)  
○補・箕岡先生に依頼  
(双三地区ゴルフ大会 於宮崎市)

⑤医師会だより 八月～十一月  
⑥編集委員補充の件  
会長に永井より申請し、酒井先生に交渉して貰う。

⑦締切 十一月二十五日  
十一月三十日付発行

11月18日(火)  
①藤谷博義先生理事辞任。後任 双三中央病院副院長 若本敦雄先生就任  
②今年度より双三地区医師会相互の年賀状発送は、とりやめの書類配付。

11月22日(土)

藤谷外科医院開院式  
於・環翠楼 午後四時

11月29日(土)

①予防接種検討協議会 午後二時 野村会長、鳴戸副会長、高場副会長  
②双三地区医師会臨床検査センター技術員選考試験 午後一時三十分  
(永井記)

## 編集 後記



三次盆地特有の霧の海と微風一過、空しく散っていく落葉の姿を眺めるとき、全山紅葉とは申せ、早、晩秋の候を強く感じさせます。本日、やっと今年最後の「巴杏」をお届けします。  
原稿の編集に手間取り、大変遅延した事を深くお詫び致します。

ストで荒れ狂う現時点ではありますが、新しい希望をもって、健やかな新春を会員御一同様御迎え下さいますようお願い致しております。  
(永井記)